

近代化遺産

シリーズ講演会

会場 倉敷市立美術館講堂 倉敷市中央2-6-1
参加費 無料

近代化遺産の保存と活用

vol. 1
「岡山における近代建築の保存と活用」

2017年7月15日[土] 13:00▶15:00 *12:30開場

講師 上田恭嗣氏 ノートルダム清心女子大学教授

vol. 2
「土木遺産の保存と活用」

2017年9月2日[土] 13:00▶15:00 *12:30開場

講師 樋口輝久氏 岡山大学准教授、産業考古学会評議員

vol. 3
「鉄道遺産の保存と活用」

2017年11月18日[土] 13:00▶15:00 *12:30開場

講師 小野田滋氏 鉄道総合技術研究所情報管理部部長

vol. 4
「産業遺産の保存と活用」

2018年1月27日[土] 13:00▶15:00 *12:30開場

講師 清水憲一氏 田川市石炭歴史博物館副館長、産業考古学会理事

vol. 5
基調講演「近代化遺産とグローバル・ストラテジー」

2018年3月10日[土] 13:00▶17:00 *12:30開場

講師 伊東孝氏 日本イコモス「技術遺産小委員会」主査、産業考古学会会長

シンポジウム「近代化遺産の保存と活用」

コーディネーター 伊東孝氏

パネリスト 上田恭嗣氏、樋口輝久氏、小野田滋氏、清水憲一氏

●主催 ― 産業考古学会、岡山近代化遺産研究会

●共催 ― 倉敷市教育委員会、就実大学史学会、吉備国際大学

●後援 ― 岡山県、岡山県教育委員会、岡山県郷土文化財団、倉敷市、全国近代化遺産活用連絡協議会
大学コンソーシアム岡山、公益財団法人有隣会、おかやま観光コンベンション協会

倉敷観光コンベンションビューロー、山陽新聞社、朝日新聞岡山総局、毎日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局
産経新聞岡山支局、NHK岡山放送局、RSK山陽放送、RNC西日本放送、OHK岡山放送、KSB瀬戸内海放送
TSCテレビせとうち、倉敷ケーブルテレビ(順不同)

●協力 ― 岡山大学、岡山理科大学、大阪学院大学、新見公立大学 / 新見公立短期大学
ノートルダム清心女子大学、アート印刷株式会社(順不同)

●助成 ― 公益財団法人 福武教育文化振興財団

●協賛 ― セルロイド産業文化研究会

産業考古学会の概要

Japan Industrial Archaeology Society

産業考古学会は、産業遺産および関連の資料を研究対象として、史料調査を中心とする歴史的手法とフィールドワーク調査を中心とする考古学的手法により、人間が築いてきた過去の生産活動の実態を科学的に解明し、その歴史的意義を探究する学問です。

産業考古学の研究対象である産業遺産とは、産業の形勢と発展に重要な役割を果たしてきた道具や機械、装置、建築物、施設、土木構造物、それらの図面、写真など、今日に遺されているものを指します。これらは、人類の歴史の重要な部分を実証する資料です。要約すれば、過去の人間の生産活動の結果として遺された有形記録資料の総体が産業遺産です。

日本の産業と経済の発展に重要な役割を果たしてきた道具や機械、工場設備などの労働手段・技術は、生産力増強のための設備更新、新事業への転換などによっていつの間にか消えてしまっているのが現実です。多くの貴重な産業遺産が失われていく状況を

憂慮した人々が全国から結集し、1977(昭和52)年、日本に産業考古学会が誕生しました。多くの産業遺産が世界遺産に登録されるなど、世界的に産業遺産をめぐる課題は重要になり、産業考古学の潮流はしだいに世界各国に波及していきました。今日では国際産業遺産保存委員会(TICCIH)が組織され、日本も重要なメンバーの一員として活動しています。

産業考古学は、あらゆる職業の、また多彩な分野の研究者、同好者が参加している「開かれた学会」です。産業考古学・産業遺産研究に関心をもたれる人は誰でも会員になることができます。産業考古学は、産業遺産の調査・研究、産業遺産の保存・活用(保存科学やヘリテージ・マネジメント)に関する研究の推進の他、産業考古学研究および産業遺産の保存の功労者の表彰、価値ある産業遺産の推薦顕彰など多面的な学会活動をしています。



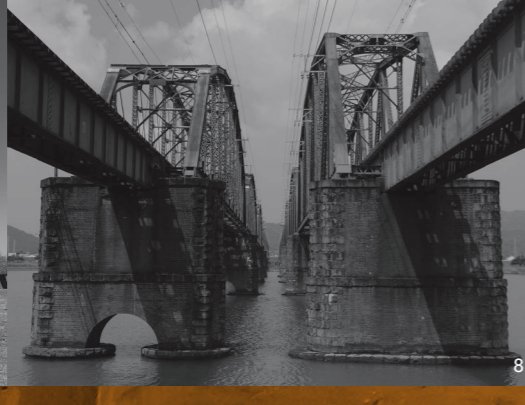
名称 ― 産業考古学会 Japan Industrial Archaeology Society (JIAS)
創立 ― 1977(昭和52)年2月12日
会員数 ― 約600人
会費 ― 個人会員 年額 6,000円(会計年度4月～翌年3月)
賛助会員 年額1口30,000円(1口以上)

学会事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5小安ビル6階 株式会社プラス・ワン気付 産業考古学会
TEL/FAX: 03-3835-2476(電話の対応は火曜日と金曜日) 郵便振替 00170-1-418882
メールアドレス jias@nifty.com ホームページURL http://sangyo-koukogaku.net/



会場
倉敷市立美術館講堂 倉敷市中央2-6-1
・JR倉敷駅下車、中央通りを南へ徒歩10分
・路線バス「大原美術館前」下車徒歩1分

お問い合わせ先
岡山近代化遺産研究会事務局
〒700-0931 岡山市北区奥田西町5-5
吉備国際大学外国語学部外国学科 小西伸彦研究室
E-mail: nkonishi@kiui.ac.jp
連絡先: 080-3886-7030



1.倉敷市庁舎(現在の倉敷市立美術館、岡山県倉敷市) 2.第一合同銀行倉敷支店(旧中国銀行倉敷本町出張所、岡山県倉敷市) 3.読書発電所(長野県木曽町) 4.錦帯橋(山口県岩国市) 5.片上鉄道吉ヶ原駅(岡山県久米郡) 6.梅小路橋関区(現在の京都鉄道博物館、京都市) 7.三池炭鉱万田坑(熊本県鹿井市) 8.南海電鉄南海本線紀の川橋梁(和歌山県) 9.白水堰堤(大分県竹田市)



1

vol.

2017年7月15日[土]
13:00▶15:00 *12:30開場

「岡山における近代建築の保存と活用」

明治以降、岡山県内に出現した近代建築は、中国・四国地域内では質の高いものが数多く見られ、現在も保存活用されているものも少なくありません。特に、教育・宗教・金融関連施設につきましては、用途の変更がなされたものもありますが、多くの建物が使われ続けています。大正期までは高等教育を受けた建築家による建物は少なく、大正末頃から西洋建築様式を駆使した建築家による建物が姿を現すようになりました。岡山では、擬洋風建築が昭和の初期

まで続き、広がりを持っていました。これは、岡山県職員(退職時技師拝命)の江川三郎八の存在によりです。西洋建築は、倉敷の実業家大原孫三郎に仕えた建築家薬師寺主計の存在が大きいと言えます。本講では、岡山県内の擬洋風建築と、倉敷を中心とした近代建築の保存と活用についてお話しします。

2

vol.

2017年9月2日[土]
13:00▶15:00 *12:30開場

「土木遺産の保存と活用」

橋梁、トンネル、ダム、防波堤、樋門、水道、発電所、灯台など私たちの生活を支えている土木構造物のうち築造後50年、100年を経過し、今なお現役で使い続けられているものもあれば、現役を退きながらも地域のシンボルとして保存され、利活用されているものもあります。これら歴史的土木構造物を保存・活用するための文化財保護法や土木学会の選奨土木遺産制度について説明します。さらに現役の施設として使い続けるための維持・修繕のあり方、やむ得

ない場合の移設・撤去のあり方、そして地域資産としての活用の仕方や地域の取り組みについて、福山藩の砂留、児島湾干拓、高梁川東西用水等の事例を紹介しながら具体的に示します。土木遺産にとって幸せな保存・活用のあり方を考えてみたいと思います。

3

vol.

2017年11月18日[土]
13:00▶15:00 *12:30開場

「鉄道遺産の保存と活用」

鉄道は、明治維新とともに日本にもたらされ、以後、現在に至るまで連綿として全国津々浦々にネットワークを拡げてきました。鉄道は本来の役割である鉄道輸送によって国や地域、文化の発展に貢献しただけではなく、その普及とともにさまざまな技術を全国に普及させる役割を果たし、近代化の牽引車となりました。明治時代以降にもたらされた鉄道遺産は全国各地に存在しており、そのいくつかは活用と保存を両立させて、今も地域の活性化に貢献してい

ます。今回は、鉄道遺産の保存の歩みを振り返り、鉄道遺産の特徴や、保存・活用にあたっての考え方などについて、全国で取組まれている鉄道遺産の活用例を紹介しながら報告したいと思います。

4

vol.

2018年1月27日[土]
13:00▶15:00 *12:30開場

「産業遺産の保存と活用」

「産業遺産の保存と活用」に関して2側面から考えてみます。第一は文化財(産業遺産)行政をめぐる変遷です。1990年の「近代化遺産」概念の登場に始まり、'96年の"登録"制度の導入によって、文化財の範囲が拡大し、保存のあり方が柔軟化します。そしてこの頃から、文化財を活用したまちづくり・地域活性化行政が始まります。21世紀になると、世界遺産の地方公募や「文化遺産を活かした観光振興と地域活性化事業」へと進展しました。こうした流れ

が出てきた歴史的背景を、どのように考えればいいのでしょうか?第二に、私が体験した具体的な事例から考えてみます。①「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録を実現していく中で体験したこと、②TICCIH(国際産業遺産保存委員会)フランス・リール大会(2015年)で視察した世界遺産「ノール・パドカレ鉱業盆地」(2012年登録)と鉱業史博物館の「保存と活用」、③田川市石炭・歴史博物館、を材料とします。

5

vol.

2018年3月10日[土]
13:00▶17:00 *12:30開場

「近代化遺産とグローバル・ストラテジー」

このタイトルをみて、講演の内容をイメージするのはむずかしいと思います。「近代化遺産」でしたら、「近代化に貢献した遺産」のことかな、くらいのイメージはつくかも知れませんが、「グローバルストラテジー」というカタカナになると、カタカナ好きの日本人でも内容をイメージするのは無理です。ではなぜ、こんなわかりにくい言葉を講演のタイトルにしたり、話題にしたりするのでしょうか。

今回のシリーズ講演会のタイトルにある「土木遺産」「鉄道遺産」「産業遺産」、これらは一口に「近代化遺産」でとくることができます。文化庁は

シンポジウム 「近代化遺産の保存と活用」

コーディネーター 伊東孝氏
パネリスト 上田恭嗣氏、樋口輝久氏、小野田滋氏、清水憲一氏

上田恭嗣 YASUTSUGU UEDA

ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科教授・人間生活学部長、博士(学術)



岡山市足守地区の歴史的まちづくり住まいづくりに尽力し、岡山市内の市役所跡・後樂園周辺地区・西川緑道公園沿いのまちなみ景観づくりに寄与する。また、岡山県の近代化遺産における建築部門の調査報告をとりまとめる。近年は、高梁市の歴史的景観まちづくりに大きくかかわっている。研究では、第二次世界大戦直前の近代建築に関する評価、岡山・倉敷を中心とした近代から近現代に至る建築等に関する研究を行っている。総社市建築審査会会長・倉敷市伝統的建造物群等保存審議会委員・早島町景観審議会委員・高梁市景観審議会会長・岡山市景観審議会会長等を務めている。日本

建築学会(岡山支所長)・建築史学会・都市学会・都市住宅学会(中国四国支部常議員)所属。著書には、共著「岡山県の近代化遺産」岡山県教育委員会、2005・単著「大原美術館の誕生―画家児島虎次郎の想いと建築家薬師寺主計の思い―」、山陽新聞社、2012・学術監修、共著「倉敷を見つめる。日本近代の遺産 有隣荘、大原美術館、2012・単著「天皇に選ばれた建築家 薬師寺主計」、柏書房、2016などがある。



旧倉敷幼稚園(岡山県倉敷市) 上田恭嗣氏撮影

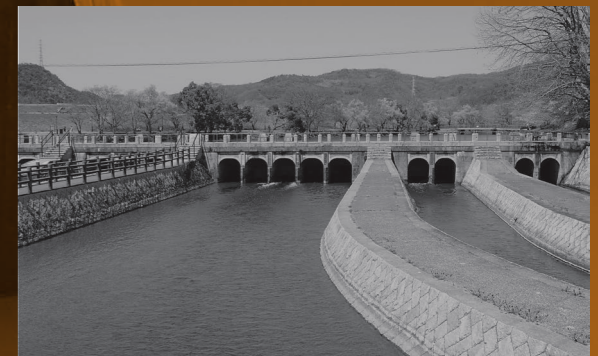
樋口輝久 TERUHISA HIGUCHI

岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授、産業考古学会評議員、博士(学術)



専門は土木史。主に、土木遺産の保存と活用、土木技術の発達史について研究。吉井水門、建部井環(いずれも岡山市)、別所砂留(福山市)など地域資産の発掘とそれらを活かしたまちづくりを地域住民と協同で実施。土木学会中国支部選奨土木遺産選考委員会委員長も務める。また、児島湾干拓をはじめ、各種土木事業の設計図、資料を展示した「土木コレクション2015 ―絵図・図面にみる近世・近代の岡山(岡山シティミュージアム)をプロデュース。著書に「岡山県の近代化遺産―岡山県近代化遺産総合調査報告書―」(岡山県教育委員会、2005、分

担執筆)、「歴史的土木構造物の保全」(鹿島出版会、2010、分担執筆)、「日本の土木遺産～近代化を支えた技術を見に行く～」(講談社ブルーバックス、2012、分担執筆)、「中国地方の選奨土木遺産(改訂版)」(土木学会中国支部、2014)、「土木コレクション HANDS+EYES」(土木学会、2014、分担執筆)などがある。山陽放送学術振興財団「岡山大学の群像VI オランダ技術で海を割った男 杉山岩三郎」(2016)でパネリストを担当。



高梁川東西用水南配水樋門(岡山県倉敷市) 樋口輝久氏撮影

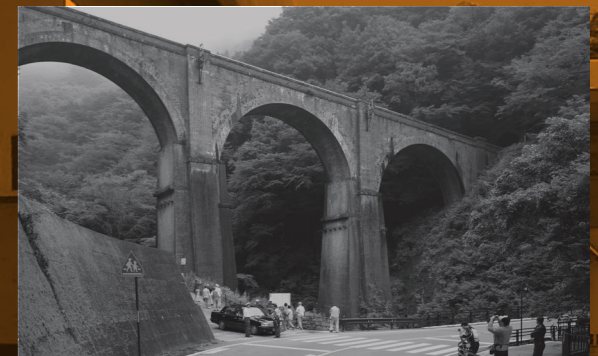
小野田滋 SHIGERU ONODA

公益財団法人鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長、土木学会フェロー、博士(工学)



1979年日本国有鉄道入社。国鉄東京第二工事局で南武線高架工事や立川駅改良などを担当。国鉄鉄道総合技術研究所地質研究室でNATMの標準化に関する研究、トンネルの保守管理に関する研究などを担当した後、鉄道総合技術研究所地盤・防災研究室、西日本旅客鉄道大阪構造物検査センターで関西周辺の土木構造物の検査、保守管理業務を担当。鉄道総研で、トンネルの保守管理に関する研究などを担当。「鉄道用煤瓦構造物の技術史的研究」で工学博士授与(東京大学)。海外鉄道技術協力協会で、中国新幹線に関する技術協力を担当。2004年から現職。NHK「プラタモリ」、テレビ東京「美の巨人たち」などに出演。

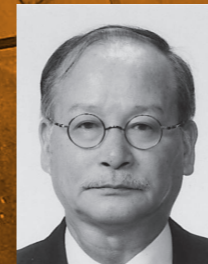
著書に「鉄道工学」(森北出版、2000、共著)、「鉄道土木構造物の耐久性」(山海堂、2002分担執筆)、「鉄道構造物探見」(JTB、2003、交通図書賞受賞)、「鉄道と深見―その歴史とデザイン―」(鹿島出版会、2004)、「図説・鉄道路線はこうして生まれる」(学習研究社、2007、分担執筆)、「日本の美術No.545―近代化遺産―交通編」(ぎょうせい、2011、共著)、「高架鉄道と東京駅」(交通新聞社新書、2012、交通図書賞受賞)、「東京鉄道遺産」(講談社ブルーバックス、2013)、「関西鉄道遺産」(講談社ブルーバックス、2014)、「鉄道遺構再発見」(LIXILブックレット、2015、分担執筆)、「鉄道構造物を探る」(講談社、2015)がある。



恒越旧線橋水第三橋梁(群馬県安中市) 小野田滋氏撮影

清水憲一 NORIKAZU SHIMIZU

九州国際大学名誉教授、田川市石炭・歴史博物館副館長、産業考古学会理事



1948(昭和23)年10月、島根県仁万町(現大田市)に生まれる。静岡大学人文学部日本史学・立命館大学院経済学研究科博士課程単位取得退学後、1977年に九州国際大学の前身八幡大学に勤務。1983年の英国バーミンガム大学留学中にアミアンブリッジ(世界遺産)と産業考古学に魅れ、関心を置く。大学では経済史入門、近代日本経済史、(北九州)地域経済史、教職日本史、「歴史文化遺産を活用した地域活性化」を担当。経済学部長、研究科長を経て、元学長。専門研究は官営八幡製鐵所の創立期研究と北九州地域史研究。2017年3月末に40年間の勤務で退職した。現在は田川市石炭・

歴史博物館副館長兼付属研究所長。また北九州地域史研究会代表、「新修北九州市史」編集委員、門司港駅舎復元検討委員、尾尾銅山、佐賀市三重津海軍所跡、熊本県荒尾市万田坑の史跡検討委員。「九州・山口の近代化産業遺産群」ユネスコ推薦書作成委員(2014年)、文化庁世界文化遺産特別委員会委員(2016年3月まで)、産業考古学会理事など。「北九州市史」わが故郷八幡、「北九州市産業史」、「北九州の近代化遺産」、「官営八幡製鐵所創立期の再検討」などを編集執筆。



The Mining History Centre, Leeward 鉱業史博物館, フランス・ノール・パド・カレール=ビカルディ地域圏 清水憲一氏撮影

伊東 孝 TAKASHI ITOH

日本イコモス「技術遺産小委員会」主査、産業考古学会会長、博士(工学)



上田弘和氏撮影

伊東孝都市環境計画研究室、日本大理工学部教授、土木学会土木史研究委員会委員長、文化庁文化財保護審議会専門委員などを歴任。現在、内閣府「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」委員、日本ICOMOS「技術遺産小委員会」主査、国指定重要文化財橋梁(永代・清洲・勝間橋)の長寿命化検討委員会)委員長、岡田川中流部著名橋色彩検討委員会委員長、錦帯橋世界文化遺産専門委員会委員、佐渡市建造物保存活用に関する専門家会議委員、富山県の文化財保護審議会委員、東京都江戸東京博物館運営委員会委員、「勝間橋をあげる会」代表、産業考古学会会長など。

著書に、「東京の橋―水辺の都市景観」(鹿島出版会、1986)、「四谷見付物語」(技報堂出版、1988)、「ダムをつくる―黒四・佐久間・御母衣・丸山」(日本経済評論社、1991年)、「東京再発見―土木遺産を語る」(岩波新書、1993)、「水の東京」(岩波書店、1993)、「水の都、橋の都―モダン東京・大阪の橋梁写真集」(東京堂出版、1994)、「日本の近代化遺産―新しい文化財と地域の活性化」(岩波新書、2000)、「近代とは何か」(共著、東京大学出版会、2005)、「鉄道遺構―再発見」(LIXIL出版、2015)などがある。



群を環境オブジェに、背景にも注目(ドイツ・デュッセルドルフ) 伊東孝氏撮影